



2016年3月5日発行(季刊)

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社
〒160-0021 新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル601

TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202

E-mail npo@hitomachi.org URL: <http://www.hitomachi.org>

郵便振替口座 00170-6-410791 市民シンクタンクひと・まち社

18歳の選挙権で何が変わるか

日本大学文理学部社会学科 教授 中瀬 剛丸

本題に入る前に自制心に関する心理学の実験を紹介したいと思います。「マシュマロ実験」と呼ばれているスタンフォード大学での実験です。被験者は4歳の幼稚園児、机と椅子だけの部屋で椅子に座るよう言われます。机の上の皿にはマシュマロが1つ置かれていて、大人が戻ってくるまで15分間食べるのを我慢したら、マシュマロをもう1つもらえるよと説明されます。大人がいない間にマシュマロを食べたら、2つ目はもらえません。実験では3人に1人程度が15分間我慢して2つ目のマシュマロを手に入れました。

長期にわたる追跡調査で、我慢できた子どもは大学進学のための試験の成績が我慢できなかった子どもよりも高く、さらにもっと大人になるまでそうした傾向が続くことが分かりました。自制心の強弱は人生を左右する要素だということですね。

自制心のない子どもに選挙権を持たせたら…という話ではありません。今の日本は社会の中核となる大人の大人が自制心のない選択をしていると私は思います。1000兆円にも上る「国の借金」を放置して、その負担を若者や子どもたちに背負わそうとしているからです。消費税率の引き上げは社会保障と税の一体改革の一環として決めたはずですが、その議論を進めることなく税率引き上げの時期を先延ばししたり、政党と支持団体のかけひきで軽減税率を拡大させたりしています。さらには今年の夏の参院選の前に年金受給者に臨時給付金という名目の現金を配ることまで決めています。目の前の1つを食べるだけでは我慢できず、次の人が食べるはずのマシュマロにまで手を出しているようなものです。

夏の参院選から選挙権を持つ年齢が18歳に引き下げられます。18歳と19歳があらたに投票すること自体で選挙結果が大きく変わるとは思っていません。中高年に比べて人口構成比が低い上に若年層の投票率が低いからです。しかし選挙をめぐって「未来への責任」という視点の報道が増えることを期待しています。私たちは国や地方自治体の巨額の借金のつけを将来の世代に回すことによって従来の制度を維持しています。かつてヨーロッパの列強がアジアやアフリカの国々を植民地として、そこで暮らす人たちの労働によって生み出された富を収奪していました。それと同じように私たち中高年の世代は、まだ生まれていない将来の日本人の労働によって生み出される富を収奪する「未来の植民地化」政策を進めているのです。植民地で支配されていた人たちは抗議の声を上げて、独立運動を展開することができました。しかし、私たちの借金を背負わされる未来の世代は私たちに抗議することもできないのです。

残念ながら「未来への責任」というキーワードはあまり注目されていません。投票できる年齢が18歳に引き下げられる今年の参院選は若い世代が抱える問題に注目する報道が増えると期待できます。その報道に接して、一人でも多くの有権者が「未来への責任」を考えて投票するようになることを私は強く願っています。

